

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26221305	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	Pathogenicな免疫記憶の形成と維持機構の解明	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	中山 俊憲（千葉大学・大学院医学研究院・教授）

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、Pathogenicな記憶T細胞の機能獲得・維持の分子機構の解明を目的として行われ、Pathogenic記憶T細胞の誘導におけるIL-33の役割を明らかにし、さらに記憶T細胞上のCD69のリガンドを同定するなど、順調に進展している。また、それら成果を着実に国際的に著名な学術雑誌に発表している。研究期間内に研究代表者が提唱するPathogenic記憶T細胞という新たな概念が確立できるよう、研究の更なる加速を期待する。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	Pathogenicな記憶T細胞の機能獲得・維持の分子機構の解明を目的として、1)IL-33存在下でAmphiregulinを産生する記憶型Th2細胞がアレルギー性気道炎症に出現すること、2)ポリコーム及びトライソニック分子群による記憶Th細胞の機能変換の解析、3)記憶Th細胞の形成と維持を担う場の構造解析、4)CD69リガンドの同定とCD69-Myl9/12システムの解析などの研究成果を上げており、その研究内容は高く評価できる。